

日経 2005.7.27 (夕刊) 5面

「希望學」立ち上げ

「希望」って何だかうつ
東大社会科学研究所
で、社会における「希望」

に挑戦するのが学者の役
目」と意気込む。

フオーカス

東大助教授
玄田 有史氏

の意味を調べる希望學
プロジェクトを立ち上げ
た。「希望が学問になる
のか、という批判もある。
けど學問はベンチャ―。
社会から求められる分野

失業者や「一ートの問題
を調べた時。失業の原因
として雇用のミスマッチ
籍のはんらんも気になっ
た。「乱暴な議論も多い。
だからこそ希望とは何
がどんな仕事を希望して

いるかさえわからない人
が多かった」。二ートも
働く意欲が低いのではな
く「働く」とは希望が持
てない若者だった」。
「したい」という希
望があるからこそ、人は
将来に向けて行動を起す
し社会も動く。「だがそ
の前提としての希望が、
今の日本は揺らいでい
る」。希望と紐の付く書
籍ははんらんも気になっ
た。学際や大論
学の枠を超えた人と議論
し、成果をまとめたい」

か、を定義づけたい」

実地調査をし、社会状

況がどう個人の希望に影

響するのか、逆に個人の

希望がどう社会を変える

のかを解きほぐす。過去

の新聞記事で「希望」とい

う言葉が一番多く使われ

たのは水俣病、そして阪

神大震災だった。同様の

絶望感が今、目に見える

ないけれどある。学際や大

論